

2026年度
神戸山手グローバル高等学校 入学試験
(1次)

国 語

- ・試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ・試験時間は50分です。
- ・解答用紙は、この問題冊子の中央にはさまれています。
- ・試験のはじめに、受験番号を解答用紙に記入しなさい。
(名前を書いてはいけません。)
- ・解答用紙の の採点欄には、何も書いてはいけません。
- ・解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。
- ・字数制限のある問いでは、句読点や記号も一字と数えます。
- ・質問などがあれば、静かに手をあげて知らせなさい。

受 験 番 号			

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 明治維新以後、日本人はアメリカ人やイギリス人が着ている洋服を着るようになりました。最初は天皇が西洋の軍服を着ました。次に男性の華族や役人や会社員たちが洋服を着るようになりました。女性は、天皇家の人々や華族たちが洋服を着ました。それはなぜでしょうか？ 今、私たちは洋服の方が安くて楽だから洋服を着ますが、当時は洋服の方が高価で、決して楽ではなかったのです。② その証拠に男性たちは勤め先から帰ってくると着物に着替えてくつろぎました。勤めに出ない女性たちはもっぱら着物を着ていました。天皇や政治家が a 率先し、服装の欧米化がおこなわれたのです。その b ケイコウは戦後（一九四五）ますます強まり、女性たちも洋服一辺倒になって、今日に c 至ります。着物はほとんどの人が着ないので、今ではとても高価なものになってしまいました。

それは洋服の方が美しいからでしょうか？ たとえば今、③ ラオスやミャンマーに行くと、多くの男性が巻きスカートです。しかし都会ではジーンズをはく人も多くなっています。客観的に見て、巻きスカートの方がはるかに美しく、また、湿度湿度の高い地域ではその方が楽に決まっています。にもかかわらず彼らはジーンズを「かっこいい」と思うからではなくのです。同じように、明治維新以後と戦後の日本人は、客観的には着物より不格好であっても、主観的には洋服の方が「かっこいい」と思い込んで着るようになりました。これがグローバル化の④ 一つの側面です。

I、④ 自国と外国のあいだに、価値の高低をつけたのです。欧米文化の価値は高く、日本文化の価値は低い、ということにしたのです。なぜかという、技術や政治のみならず生活まですべて欧米化すれば「世界に認められる」と考えたからです。冷静に考えれば、衣食住まで変える必要はありません。より良いと思える技術や政治手法は導入し、そう思えないものは導入せず、生活のしかたはそのまま良いわけです。

II 明治維新と戦後に起こったことは、都市の設計、

建築物、エネルギー政策、衣類、食べ物に至るまで欧米化することでした。こうしないと世界の中で生きて行かれないからではなく、欧米社会の生活を「豊かさ」だと思い込み、⑤ そこに「幸せがあるはずだ」と考え、それを目標にしてしまったのです。

これはまた、日本の側だけの事情ではありません。アメリカは小麦やミルクや肉や自動車や洋服生地やナイロンを売る市場を探していました。占領下に置いた日本は、ものを売る先として、もともと都合がよかったのです。そのようなアメリカの事情は現在でも同じです。今は、日本に米や保険や高度医療を売ろうとしています。

⑥ グローバリゼーションには長所と欠点があります。大量に製品を作ったり、広い土地で農業ができる国が、生産力の劣る国に大量に安く商品売ることで、ものや文化の多様性が失われ、国の自立性が無くなります。また、軍事力の弱い国が強い国のあらゆる面を模倣し依存することで地球上の文化が多様性を失います。それらの点が短所です。明治以降の日本はその短所の方を選んでしまったわけです。戦後も、二〇一一年には貿易のさらなる自由化によって、また同じ選択をしました。

⑦ もう一度、江戸時代に戻ってみましょう。羽織や着物や帯の事例で分かってきたと思いますが、戦国時代から江戸時代の日本人は、ポルトガル船やオランダ東インド会社船が運んできた衣類を、全面的に受け容れたわけではありませんでした。彼らが導入したのは「生地」でした。そこには暖かい素材、美しい色彩、面白い文様やデザインがあり、その面白さ美しさを採用しました。ついでにズボンもシャツも取り入れてみましたが、シャツはあまり拵がらずズボンは部分的に採用されました。食べ物では、金平糖やカステラやどら焼きは江戸時代に入ると、とても一般的なお菓子になりました。

それだけではありません。江戸時代では男女とも「たばこ入れ」というものを持つアのお洒落でしたが、その素材には、オランダ東インド会社が持ってきたヨーロッパの羅紗や金唐革（牛の皮革に金銀や色で文様をつけたもの）、インドネシアや中国イの木綿、インド更紗などを使いました。羅紗ウの生地は秋の虫を刺繡し、珊瑚で作った柿エの

形の金具をつけ、月と竜田川をデザインした鎖で飾ったたばこ入れがあります。これは、素材は輸入品の羅紗ですが、日本の秋を形にして取り合わせたのです。金唐革で作ったたばこ入れには、ふぐの形の金具をつけ、奈良の興福寺の古瓦をかたどった根付けをあしらいました。これは「ふぐ」と「福」のなじみです。かわいらしいふぐの金具をつまんで開けると、その裏にはカレイと梅の文様の金具がついています。ふぐは冬の季語（俳句で使う季節の記号）、カレイと梅は春の季語です。で、たばこ入れを開けると春になるのです。金唐革はヨーロッパのもですが、そのデザインと組み合わせは日本のものです。

江戸時代は中国、朝鮮、琉球、インド、インドネシア、ヴェトナム、カンボジア、南ヨーロッパ、北ヨーロッパなど、それぞれ異なる文化の影響を受けながらも、どこに偏るでもなく、必要なものをもらいながら、日本文化を作り上げていました。これを「内発的發展」と言います。「内発的發展」こそが、グローバリゼーションがもたらす長所です。

内発的發展とは、どこからも影響を受けずに閉じた空間で独自の発展を遂げることはありません。あらゆる情報を獲得し、その場所の気候や自然環境や歴史や職業や今後の仕事の可能性に沿いながら、人々がうまく生活していけるように取捨選択して経済システムを作り上げてゆくことです。

自然環境を無視して技術だけを導入すると、とんでもないことが起こってきます。Ⅲ 森林に恵まれているのに木材を外国から輸入して森林崩壊になるとか、雪で倒れることがわかっていて高山に杉を植えるとか、湿度が高いのにそれを吸収できない建築材料を使うとか、地震が多い国土に原子力発電所をたくさん作るなどは、実際に日本がやってきたことです。自然環境は人の力で変えられないので、それを無視すると大きな災害が起きたり、膨大なコストがかかったりするので。そこから考えると、内発的發展に知恵を絞るのは、とても重要なことなのです。

（田中優子『グローバリゼーションの中の江戸』より 一部改変）

問一 Ⅱ線部 a と c について、漢字は読み方を、カタカナは漢字に直して答えなさい。

問二 ⅠとⅢ にふさわしい語を、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

あ たとえば い しかし う もし え つまり

問三 Ⅰ線部①「明治維新以後、日本人はアメリカ人やイギリス人が着ている洋服を着るようになりました」とありますが、このようになった理由として適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 洋服の方が価格が安く、日常生活で着やすいと人々が考えたから。
い 欧米文化の方が日本文化より価値が高くと人々が思っていたから。
う かつて天皇だけが着用できた洋服に、人々があこがれたから。
え 欧米の生活様式を取り入れなければならない制度ができたから。

問四 Ⅰ線部②「その証拠」とありますが、ここで筆者は何を示そうとしているのですか。その内容として適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 洋服が当時の日本人にとって高価であったこと。
い 洋服が当時の日本人にとって楽ではなかったこと。
う 着物の方が洋服よりも美しかったこと。
え 男性と女性で服装の好みが変わっていったこと。

問五 — 線部③「ラオスやミャンマー」とありますが、これらの国の例を用いて、筆者が説明していることとして適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 暑い地域では伝統衣装が必ず選ばれるということ。

い 人は機能性より客観的な美しさを重視するということ。

う 衣服の美しさはその国の文化と深い関係があるということ。

え 主観的な「かつこよさ」が服装選択に影響するということ。

問六 — 線部④「自国と外国のあいだに、価値の高低をつけた」とありますが、なぜこのようなことをしたのですか。説明しなさい。

問七 — 線部⑤「そこ」とありますが、どういったことを指しますか。その内容を表す部分を、本文より七字で抜き出して答えなさい。

問八 — 線部⑥「グローバリゼーションには長所と欠点があります」とありますが、本文の内容に合う長所と欠点の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 長所…外国の文化や技術を取り入れ、生活が便利になること。

い 欠点…生活のしかたが画一的になり、地域ごとの特色が薄れること。

う 長所…安い商品を多く輸入し、経済が活発になること。

え 欠点…外国との交流が極端に少なくなってしまうこと。

あ 長所…外国と同じ生活様式を持ち、評価されるようになること。

い 欠点…生活全体を欧米化しなければならなくなること。

う 長所…外国の文化や技術を生かして発展できること。

え 欠点…強い国に依存し、文化の多様性や国の自立性が失われること。

問九 — 線部⑦「もう一度、江戸時代に戻ってみましょう」とありますが、ここから読み取れる筆者の考えとして適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 江戸時代の生活様式や文化を、そのまま現代社会に取り戻すべきだという考え。

い 江戸時代の日本は、外国文化を積極的に取り入れることで発展したのだという考え。

う 外国文化を無条件に受け入れず、自国に合う形で選ぶ姿勢が重要だという考え。

え グローバリゼーションそのものを否定し、現代社会においては無用なものだという考え。

問十 — 線部ア、エの「の」の中で、文法的な働きが異なるものが一つあります。記号で答えなさい。

問十一 本文では、明治維新以後の日本と江戸時代の日本とを対比しながら、外国文化の受け入れ方について述べています。それぞれの外国文化の受け入れ方について、解答欄に従い簡潔に説明しなさい。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

信行がいつもの席についてみると、隣のテーブルに先客がいた。それは、①この店には場違いな感じの、恰幅かつぶくのいい紳士だった。

着ている背広の生地といい仕立てといい、半端はんぱなものではない。見る人が見れば一目で相当に高級なものわかる英国風のスーツであった。そのほか、靴やベルトからも、着るものに金がかかっていることがうかがわれる。

そこそこの会社の社長か、重役か、という風情ふぜいであった。このさびれた食堂に姿を現すこと自体、奇異な感じの人物である。

その客は、その日の②特別料理を両手で握りしめていた。彼が両手で握っているのは、子供のスリッパほどの大きさのコツペパンだった。

③社会的地位を得た人間の身に自然にそなわる貫禄かんろくと余裕よゆう。自信に満ちた態度と、無意識に出てしまう優越感。そんなものをその客は漂わせていた。個人的につきあえば信行など、思わずたじたと圧倒されてしまうであろう。

その人物が、どう見てもあまりうまさうとは思えない、aソマツなコツペパンをしっかりと握って熱い視線をじつとbソソいでいた。

その客はコツペパンを口へ持っていき、夢中かぶりついた。ほかの一切のことを忘れて、パンをかみしめることだけに全神経を集中しているというような様子だった。

むしゃむしゃとむさばり喰くう、という表現がびつたり食欲がぶつぷりだった。よほど腹が減っていたに違いない、という印象であった。

その食べっぷりに引き込まれるように、信行はc風格ある客の方をじつと見ていた。

パンがあと一口で終りという時、客はやっとひと息ついて残ったひとかけらを見つめた。そこまでは無我夢中だった、とでもいうように。そこでやっとほかのことを考えるゆとりを取り戻したかのように。

客の顔に、何とも言われない悲しそうな表情が現れた。彼がそれまで漂わせていた優越感も、余裕も、すべて消えうせてしまっていた。今にも泣きだしそうな顔で、その客は残ったパンのかけらを見つめていた。そして、それをぼいと口の中にほうり込んだ。

しかし、さつきまですは食べ方が違っていた。にわかはそのパンが砂でできているものになってしまったかのように、④紳士はまずそうにかんでいた。

いきなり、恰幅のいいその紳士の両眼から、涙がこぼれ落ちたのを見て信行ははっとした。そんな人物が涙を流すことがあるうとは、想像もできないことだった。

その客はテーブルの上に両手をつけて、ガクリと首をたれた。テーブルの上にぼたぼたと涙が落ちていく。その人の肩は小きざみに震えていた。

どうかしたのですか、と声をかける状況であったかもしれない。だがそれよりも、あまりに⑤意外な進行のため黙って見ていることしかできなかった。

堪こらえに堪えた感情がとうとう抑えきれなくなつて爆発した、という感じに、その人はいきなり、X初めそれは動物の呻うめき声のようであった。

両手をテーブルについたまま、肩を揺すってその人は呻き続けた。やがてその呻き声は、Y大人がそんな風に泣き声をあげることがあるとは信じられないほどのものであった。

異様な泣き声は「時代食堂」の中に響きわたり、何事かとウェイターが姿を現した。

「お客様、どうしたのですか」
抱き起こすようにしてウェイターはそう言ったが、客はおうおうと泣き声をあげ続けるばかりだった。

白衣を着たコックも出てきた。店の二人で紳士をかかえるようにして、両側から声をかけるのだった。

「泣くことはありません。もう終ったことです。全部すんだのです」

「ア温かみの感じられる落ちついた声でコックはそう言った。

「おれは……」

紳士は呻くように言った。

「⑥おれは人でなしだ。おれは鬼のような人間なんだ」

「いいんです。いいんです」

紳士の背中に手をあてて、コックはそう言った。

「おれは人間のくずだ。軽蔑してくれ。おれは生きていく値打ちのない人間だ」

「そんなことはありません。誰だってそうなのです」

コックの言葉はすべてを承知しているように、イ慈愛に満ちていた。

「おれは病気で寝ている妹のパンを奪って喰ってしまったんだ。ろくにものを喰ってなくて、妹だってふらふらになるくらい腹をすかしていたというのに。その妹の手からパンを取りあげ、それを喰ってしまった鬼のような人間なのだ」

紳士はそう言うときわ大きな泣き声をあげるのだった。

「いいのです。すんだことです」

コックは同じ言葉をくり返した。

紳士はしゃくりあげながら、なおも言葉を続けた。

「そのために妹は……、そのために病気だった妹は……」

コックは客の背中を、ウ優しくさすって言った。

「それでいいのです。そういうことがあってあなたはこうして生きていくのです。⑦誰だつてそのようにして生きていくのです」

紳士は全身から力を抜いて椅子にへたりこんでしまった。

Z

善人そうなウエイターはおろおろしたような顔をして、紳士の肩に手をかけていた。

コックはゆっくりと何度もうなずきながら、紳士を見つめていた。すべてを承知して、すべてを赦すというような態度だった。

それからコックは、体の工向きを変えて信行の方を見た。小さく頭を下げて、すまなさそうに彼は言った。

「申しわけありませんが、こういう事情ですので今日のところは……」

信行は椅子から立ちあがって素直に言った。

「はい」

「どうも申しわけありません」

「いや、いいんです。また来ます」

そう言うとき信行はその日は何も食わず、「時代食堂」を出たのであった。

(清水義範『時代食堂の特別料理』より 一部改変)

問一 —— 線部 a と c について、漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

問二 —— 線部 ①「この店には場違いな感じ」とありますが、どのような点で場違いなのですか。その内容として適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 若者向けの店には不相応な客だと思われる点。

い 中年向けの店には不相応な客だと思われる点。

う 高級な店には不相応な客だと思われる点。

え 庶民的な店には不相応な客だと思われる点。

問三 —— 線部 ②「特別料理」とありますが、具体的には何を指していますか。本文から抜き出して答えなさい。

問四 —— 線部 ③「社会的地位を得た人間」とありますが、具体的にはどのような地位を指していますか。本文から十五字以内で抜き出して答えなさい。

問五 — 線部④「紳士はまずそうにかんでいた」とありますが、なぜまずそうな表情に変わったのですか。その説明として適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ あんなに柔らかかったはずのパンがこんなにも堅くなってしま
い、とてもまずく感じられたから。

い あれほど大量にあったパンがあともう少しになってしまい、悔し
くも切なく感じられたから。

う パンを夢中で食べているうちに、パンにまつわる昔の苦い記憶が
よみがえり、つらくなったから。

え 人前でパンをむしゃむしゃとむさぼり喰っている自分の姿にはた
と気づいて、恥ずかしくなったから。

問六 — 線部⑤「意外な進行」とありますが、何が意外だったのですか。説明しなさい。

問七

X

Z

 に当てはまる「紳士」の様子とし

て適切なものを、それぞれ次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ あたりをはばからぬ号泣に変わっていった。

い 低く押しつぶされたような嗚咽おえつをもらし始めた。

う 彼の号泣はまだ続いていた。

問八

ア

エ

の中で、一つだけ品詞の異なるものがあります。それを選び、記号で答えなさい。

問九 — 線部⑥「おれは人でなしだ。おれは鬼のような人間なんだ」とありますが、紳士が自分をこう思うようになったのは、過去のどのような行動によるものですか。本文の内容に即して、説明しなさい。

問十 — 線部⑦「誰だってそのようにして生きています」とありますが、「コック」は紳士にどのようなことを伝えようとしているのですか。その内容として適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

あ 重大な過ちを犯した人間は、他者とは異なる特別な人生を歩むべきだということ。

い 後悔したときは、涙を流して心から自分の行いを償わなければならないということ。

う 人は誰でも後悔や迷いを抱えながら生きてるので、自分を責めすぎなくてよいということ。

え 過ちを犯した人間は、その過ちに対して二度と償うことはできないということ。